

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200157		
法人名	株式会社 四季の郷		
事業所名	グループホーム 四季の郷羽津		
所在地	三重県四日市市白須賀2丁目11-4		
自己評価作成日	平成26年5月31日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490200157-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26年 6月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同施設内の訪問看護ステーションと連携をとっており、安心の医療連携体制があります。それにより、ターミナルケアも経験豊富な訪問看護と介護とが連携し、入居者に安心して過ごしていただくことができ、また、もしもの急変時にも24時間の対応をしている。
また、同法人内の事業所同士の交流もあり、音楽療法や誕生日会等のイベント参加で利用者同士の触れ合いの機会を設けております。
運営推進会議には、地域の方、行政関係、ボランティア、ご家族等の参加を頂き内容も充実しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

株式会社四季の郷では、グループホーム・デイサービス・有料老人ホーム・訪問看護ステーション・訪問介護・居宅介護支援センター・住宅改修・福祉用具貸与・販売等の事業所があり、幅広い支援を総合的に行っている。グループホームと訪問看護ステーションが併設され、積極的に往診も利用し、重度化や終末期への支援まで責任を持って行う姿勢で取り組んでいる。介護と調理や洗濯、掃除といった家事を受け持つ職員が役割を分担しており、介護職員は利用者との時間を多くとることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念をグループホームでも共有し日々の仕事の中で実践している。	「四季の郷はみんなのお家です。」で始まる理念を掲げ、職員と利用者は家族であり、一人一人に合わせた密接な支援ができるよう、研修の度に職員の意識改革と質の向上に努め、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1度定期的に運営推進会議を開催し、入居者のご家族や特に地域の代表の方々には積極的に出席をお願いしているほか、地域の商店へ買い出しに出かけたり、散歩中の談笑等、交流の機会がある。	周囲は工場や会社が多く、現在周辺住民との交流は少ないが、フラダンス発表会や地域のお祭り、散歩先での立ち話で交流の機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、理解や支援の方法を話す機会や、市域の老人会や自治会の依頼で講師をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況を報告し、それに対する市域の出席者の意見を頂くことで、現状の見なおしや、問題点の解決の参考にしてしている。	防災訓練やヒヤリハットの報告等に対し、出席者からの質問も出て、日常業務の振り返りや気づきの機会になり、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に毎回運営推進会議に出席していただいている。運営状況をその都度報告し、事業所のサービス向上への意見を頂いたり、疑問点等、すぐ連絡の取れる関係性を構築している。	市担当者からの率直な意見や指導を受たり、新人研修で制度について説明を依頼している。直接相談したり、連絡を取り合い協力関係を築くことができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠の実施はしているが、「身体拘束はしない」を掲げ、身体拘束をテーマに社内研修を実施するなど、職員の理解や意識向上への取り組みを実践している。	拘束しないことが原則であるが、試行錯誤しても危険回避が難しく、家族への説明と同意の上で玄関の施錠や椅子のベルトを利用したことがある。年2～3の職員研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待をテーマに社内研修を実施。知識を学習し、虐待防止や発見についての責任、意識向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記の虐待防止とあわせて権利擁護も研修の中で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間を取り説明しているが、改定(余りない)の説明に関しては不十分な傾向がある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	心置きなく苦情や要望の意見を言っていたくよう働きかけをしている。苦情箱は玄関に設置している。	利用者からは日々の会話で、家族からは面会時やケアプラン作成時に話し合いの機会を持っている。苦情は直接伝えてもらい、職員会議で検討し、改善できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年ごとに社長との職員面談を実施している。日常的な意見は、管理者との距離感が近く、職員が提案しやすい雰囲気がある。	外食場所やレクリエーションの提案等、職員から管理者への提案は日常業務の中で多く出るので、職員間で検討したり、管理職会議にて検討し、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長面談での聞き取りや、自己評価表、研修への参加実績等を参考に賞与への反映を実施している。また、それぞれの希望する労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の実施や、外部の研修への職員参加を促している。新人についても、入社時の集中研修やエルダーとの担当制でOJTのフォローの体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市でのサービス部会等に出席。また、現場職員についても、外部の研修の参加を呼び掛けて、同業者との交流や研修を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を入居前に実施している。 また、入居時には特に意識的に入居者の様子に配慮し、本人の不安や要望を聞き出すようその都度職員への申し送りを行っているなど、関係づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を入居前に実施し、必要に応じて生活の様子を家族へ報告するなど、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の本人、家族面談やケアマネとの連携の中でケア内容や福祉用具等の設備など、必要な支援を見極める体制を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の家事参加を促すなど、介護の提供だけでなく暮らしを共にしていく関係づくりがさらに求められる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居以前の関係性を継続できるよう、本人と家族の要望があれば、可能な限り対応している。また、本人のケアに関して家族へプラン等説明と同意を得、共に支えていく関係づくりに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特別な支援は特に実施していないが、手紙の郵送や電話、面会など、要望があれば、自由に実施できるよう支援を行っている。	積極的に馴染みの関係への継続支援は行っていないが、雑談の中で趣味や特技を把握したり、漁師町生まれの利用者達で地元の話が盛り上がり、お刺身を献立にとり入れたことがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守り等で利用者同士の関係把握に努めている。また、それらの情報の共有を職員間で行い、必要に応じて利用者の関係づくりに職員の介入をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年5月に1人目のサービス修了者があり、今後必要に応じて相談や支援の実施を提供できる関係を維持するように努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者が定期的に本人へ聞き取りを行い、自由に話す機会を設けており、また、介護職員も日々の中で利用者からの意向をよく聞き、それを職員全体で共有するよう努めている。意思疎通の困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話以外に、夜勤者が傾聴したり、センター方式の「暮らしの情報」を利用して把握できるように改善している。意思疎通が困難な場合は家族から聞き取り、検討している。	センター方式の「暮らしの情報」を利用しての把握に取り掛かり始めたばかりのため、全利用者への把握と、それを活用した支援への取り組みを進めていくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、ケアマネからの聞き取りを行っているが、これまで不十分なケースもあった。聞き取りのシートを改善するなど、把握の向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録を時系列で記載するなど見守りや、本人への声掛け等で可能な限り生活その他の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に来訪される家族が多く、必要に応じてその都度聞き取りを実施している。定期的に担当者会議を本人、家族、職員や関係者と実施し、そこでの意見をプランに反映するようにしている。また、介護職員独自の計画を立案し、実施評価を行っている。	利用者・家族への聞き取りと、担当者会議が行われた上で、ケアマネジャーによるケアプランと、介護職員がより緊急で具体的な課題をあげた介護計画書をもとに支援が行われている。モニタリングもそれぞれ行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をテーマに社内研修を実施し、記録の内容の向上に努め、毎日の申し送り等で情報の共有を実施している。また、計画作成担当者や医療機関への情報提供に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の機会の増加や食事内容の改良など、入居者や家族からの要望を各担当部署や関係部署で相談し、柔軟なサービスの提供に取り組んでいるが、実現に時間がかかることも度々ある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係職員と話し合いながら、それぞれの入居者に対して支援の必要性に応じて地域資源の活用の充実に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人、家族と相談し、これまでの主治医を継続するか、協力医療機関へ移行する意向をくみ取り個別に対応している。また、できるだけ往診の体制を取れるよう、医療機関と連携を取っている。	基本的には家族による通院で、困難な場合は職員が行い、状況によっては往診に変更することを提案している。入居前からのかかりつけ医による往診を受けている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の訪問看護ステーションと医療連携の体制を取っており、介護職員からの情報や気づきをすぐに提供できる。また、記録も共有し看護職のケア内容も介護と共有することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談は主に家族を通して行っているが、今後はケアマネが中心となって実施するよう体制を整えたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化対応の指針」を説明し、さらに終末期及び急変時の同意書にて延命は望まない旨の同意を確認しているが、終末に向けてご家族とは何度も話し合いを重ねている。	積極的な取り組みが行われており、入居の説明時には全利用者と家族から、事業所で看取って欲しいという希望がある。開設2年目であるが1名看取りを行い、現在1名終末期の利用者への支援を担当医・訪問看護師・家族の協力の元で行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災の担当者を置き、災害時の訓練を定期的に行っている。応急手当の内容はAEDの使用方法については訓練を実施しているが、その他の救急処置等はナースにより内部研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災の担当者を置き、日中と夜間のそれぞれの時間を想定した避難訓練を実施した。今後も繰り返しの訓練実施で全職員の知識の向上を図っていく。	利用者が事業所外へ避難する場合の地域住民への協力体制には至っていないが、津波被害の想定区域内であり、4階建ての為、近隣住民の避難場所にもなっている。備蓄食料の確保はできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧さのある言葉かけやプライバシーを損ねない配慮を促す旨のポスターを掲示する等職員の意識改善に取り組んでいる。	特に言葉遣いや、利用者の目線で接することを大切にし、一人一人のその時の意向を重視した個別的な対応ができるように努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身で希望を訴えられる利用者は、その都度時間を取って傾聴するが、そうでない方へは様子の変化に応じて職員から声を掛けるなど、普段から全員の思いを偏りなく聞き取ることをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のタイムテーブルはあるが、その中で入浴のタイミングや居室などでの自由時間等それぞれのペースに合わせて希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧乳液の塗布やブラの着用等、これまでの身だしなみの継続を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が盛り付け、配膳まで実施しているのが現状だが、可能な方には準備や片づけへの参加を促していきたい。調理はおやつ作りをレクとして実施。イベントとして外食的気分を味わえるような特別食を毎月提供するなど、楽しみなものになるよう支援している。	利用者と職員が共に調理の準備や食事をする機会は少ないが、食の充実を重視し、管理栄養士が利用者アンケートを参考に献立を立て、病状に応じ個別食も行っている。料理は別棟の厨房で専門チームによって作られ、事業所内では炊飯と汁物の調理を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分の摂取量を記録し、個別の体調管理をしている。さらに、今年度から管理栄養士を採用し、より個別的で適切な栄養管理を行ってゆく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の口腔ケアを実施。要望に応じて協力医療機関歯科の訪問診療や口腔ケアも提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現状ほぼ排泄は自立の利用者が多数だが、排泄チェックシートを使用し排泄パターンの把握をし、支援の必要な方にはパターンに応じたトイレ誘導を支援している。	自立に向けて声かけ・誘導・夜間のポータブル使用を行っている。拒否や放尿で対応が困難な利用者へは、検討と試行錯誤を重ねて支援を行ってきた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを使用し、排便の無い場合には水分摂取の促しや運動の呼びかけを実施し、処方薬の適切な投与の調整も含め、個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設で曜日、時間帯の指定がある。	利用者を2グループに分けて、週3回ずつ、午前中にゆっくり入浴している。午後の希望や汚れた場合には臨機応変に対応している。一般浴のため、重度化した利用者は同建物内にある他サービスの機械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの希望やタイミングで就寝の時間は個々の自由に任せ、個別にCDをかけるなどの個々の習慣を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬局から発行される個別の薬の説明書をファイルし、いつでも内容を確認できるようにしている。また、薬の保管やセット、服薬確認、心身の状態変化の経過観察と記録等、看護との連携も取りながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会やボランティアによる各種イベント等の実施やノンアルコールビールでの晩酌、馴染みの傾聴ボランティアの利用継続、定期的な家族との外出等、各自にあった気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前の企画書の提出が要るなど、レクリエーションとしての外出には制約があるが、家族との外出は自由に可能である。	花見や買い物、お祭り等、全体での外出は月1回程行われ、気候の良い時には散歩にも出かける。個人的な外出希望への対応は難しいので、受診に合わせて行っている。	個人的な外出を希望している利用者があるため、できるだけ希望に沿った支援ができるよう検討し、実行していくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の許可を得たうえで、各自お金を所持している利用者もいる。スーパーなどへの外出時にはそれぞれが支払いをし、必要に応じて付添等の支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に利用者の要望に、応じて電話や手紙のやり取りを行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規立ち上げからの備品の不足も徐々に解消され、入居者の作品を展示するなど季節感、生活感の取り入れや、テレビや席の配置を入居者と相談して決めるなどし、居心地の良い環境整備を支援している。	事業所中心に台所・食堂・居間を兼ねた明るく広い場所があり、利用者が集ったり、午後からレクリエーションをして過ごす場所にもなっている。毎日職員が清掃し、スッキリと片付いている。3階にあるため、事業所全体の風通しや採光も良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席では一人で塗り絵などの趣味の作業をしたり、ソファで並んで談笑をするなどの各自の過ごし方に添えることもあるが、共用のリビングではやはり独りになりにくい状態である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンス等の据え置き家具はあるが自由な自宅から家具や置物の持ち込みを支援し、自分の作品や花を飾る等本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	テレビ・テーブル・座椅子・棚・小物類等自由に持ち込み、各利用者ごとに個性のある過ごしやすい居室になっている。入り口から居室内まで、手作り作品が飾ってある利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全優先の観点から玄関、窓の一部施錠がある。また、それぞれの薬はすべて鍵付きのケースで施設管理するなど、できるだけ本人を尊重しながら危機管理を実施するよう心掛けている。		